

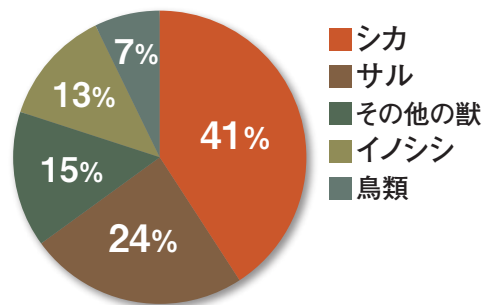
# みんなで取り組む 獣害対策

問合せ 産業振興課農業グループ(☎84-5082)



平成30年度の全国の野生鳥獣による農業被害は約163億円で、被害額の約6割がシカ、サル、イノシシによるものです。

国や県、市、地域による獣害対策により被害額は少しずつ減少していますが、最近では、今まで被害がなかった地域でシカやイノシシの被害が発生したり、市街地でニホンザルが現れたりするなど、被害地域は広がっています。市街地で野生動物を見かけても農業被害が主であるため、農業者だけの問題と思われるがちですが、人馴れが進むと、家屋に侵入したり、人を襲ったりするようになり、道路で車にぶつかるなど通常の生活にも支障が出てきます。そのため、獣害は日常生活に影響があるという共通認識を一人ひとりが持ち、みんなで対策に取り組むことが大切です。



【出典】厚生労働省：全国の野生鳥獣による農作物被害状況（平成30年度）



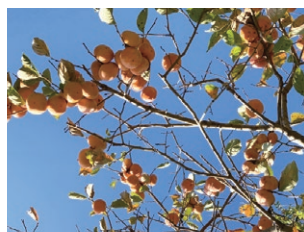
## 獣害の起こる背景

野生動物は警戒心が強いにもかかわらず、人の生活範囲に入ってくるのには理由があります。環境や状況によって、さまざまな理由が考えられますが、ここでは主な理由を2つ紹介します。

### 理由1 食べ物が豊富にあるから

人が生活しているところには野生動物にとってのエサが豊富にあります。田んぼや畑の農作物だけでなく、収穫していない果実(クリ、カキ等)、土手に生えている草、生ごみなど、さまざまなものがエサになります。

人の生活範囲の中でエサ場を見つけた野生動物は、何度もその場所に来る可能性が高くなります。



収穫する予定のないカキ



稲刈り後の株からでた芽

### 理由2 人馴れが進んでいるから

豊富なエサは野生動物を呼び寄せる大きな原因ですが、警戒心が強い野生動物はそれだけで人の生活範囲に入ってくるわけではありません。野生動物も人を観察し、安全かどうかを判断しています。

追い払いなどもされず、人が安全だという経験を繰り返していくことが、人馴れにつながります。人馴れが進むと、人から逃げなくなり、場合によっては攻撃をすることもあります。



### 人馴れの進み方(サルの場合)

#### 第1段階

人に対して強い警戒心を持っているため、人の生活範囲にはほとんど入らない。



#### 第2段階

人がいないときに畑などから食べ物を取り、山の中へ持って帰って食べる。



#### 第3段階

人の生活範囲を安全な場所と認識しているので、食べ物を取り、その場で食事をする。



#### 第4段階

人への警戒心がなくなり、人がすぐそばにいても食事をする。屋根の上でくつろぐ。

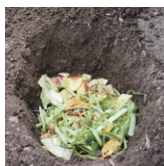
# 獣害対策での重要なポイント



獣害対策は田畑に柵を設置したり、捕獲をしたりするだけではありません。鳥獣を近づけさせない・定着させない環境をみんなで作り、継続して取り組んでいくことが大切です。

## ●エサを残さない・与えない

放任果樹は収穫・伐採して、収穫しない野菜やくずは埋め、そこにエサがあると学習させないようにしましょう。



## ●隠れ場所をなくす

耕作放棄地や荒れた竹やぶなどは、動物にとって格好の隠れ場所になります。見通しを良くして隠れ場所をなくしましょう。

## ●柵・ネットを正しく設置する

田畑をエサ場にさせないために、柵やネットで守ることが重要です。獣種によって、効果的な柵の種類や電気柵の高さ、間隔などが異なりますので、状況に合わせて正しく設置しましょう。



## ●みんなで協力して追い払う

サルの場合、特に学習能力が高いので、みんなで追い払いをして「この場所は、人間が追い払いをしてくるので危険だ」と覚えさせることが重要です。

1人だけの追い払いだと、その人が追ってこない場所に移動するだけになってしまいます。

PICK UP

## 関南部地区まちづくり協議会の取り組み

関南部地区まちづくり協議会では、平成25年に住民アンケートを行った結果、「シカ、サル、イノシシなどの獣害に悩まされている」との回答が多かったため、獣害対策を重点課題として取り組みを始めました。先進地の視察や、追い払い用火火の取り扱い講習会や備え付け、捕獲作戦を展開し、令和元年度「獣害に強い集落」等優良活動の三重県知事表彰を受けるなど、その活動が認められています。



### 主な取り組み

- 福徳自治会・萩原自治会では追い払い活動を行い、成功例の情報を共有
- 野生動物の隠れるところを無くすため、雑木伐採や耕作放棄地などの草刈りによる環境改善
- 捕獲チームを編成し、くくり罠による捕獲作戦の展開 など



夜になると十数頭のシカが群れを成していたり、野生動物が自動車に衝突したりすることに悩まされていました。放っておけば被害は増える一方なので、対策をしていくしかないと思い、みんなで獣害対策を行ってきました。その結果、水田や畑の被害はほぼなくなり、日常生活でも野生動物と遭遇する不安が軽減されました。

関南部地区まちづくり協議会 副会長 松村 弘光さん

## 市の獣害対策や補助制度

### ◆獣害対策出前講座

その地域にいる獣の種類に合わせた対策を説明します。また、講師の派遣や国の獣害対策事業についても説明します。

### ◆防護柵設置補助

獣害から農産物を守るため、農地に設置する防護柵やネットなどの資材に対して1/2の補助を行います。(補助の上限や加算金あり)

### ◆追い払い用ロケット花火の無料配布

サルの追い払い用としてロケット花火と発射用パイプを産業振興課農業グループで無料配布しています。

